

日本一の桃太郎と松盆栽

5月5日はこどもの日。古くから端午の節句として、鯉のぼりや五月人形を飾り、男の子の成長を願い、祝う日として知られています。その五月人形の中でも人気があるのが桃太郎です。

桃太郎は日本の代表的なおとぎ話で昔も今も男の子の理想のヒーローです。その舞台はといえば、きび（吉備）団子になぞらえて岡山県説が有名です。しかし、それに勝るとも劣らない有力な桃太郎伝説がここ高松にもあります。中心は鬼無町と女木島です。高松の桃太郎伝説が知られるようになったのは、昭和5年に当時上笠居小学校の先生だった橋本仙太郎という人が書いた『童話「桃太郎」の発祥地は讃岐の鬼無』という論文が発端だそうです。おじいさんが芝刈りに行ったのは桃太郎神社の東南の柴山、おばあさんが洗濯していたのは本津川（ほんづがわ）。犬や猿や雉も実在した有志たちで、それぞれ岡山県犬島（いぬじま）、綾川町陶の猿王（さるお）、鬼無町雉ヶ谷（かしがたに）の住人とのこと。鬼ヶ島はもちろん女木島です。つけ加わるのは鬼（海賊）を退治した後、鬼が逆襲してきたのを返り討ちにして全滅させ、鬼がいなくなったということでこの土地一帯を鬼無（きなし）と言うようになったという落ちの部分です。さらにこの話を讃岐国守であった菅原道真が漁師から聞き、おとぎ話としてまとめたのが「桃太郎伝説」の始まりとされています。地名の由来となった実話がおとぎ話化された経緯も含め、非常に説得力のある有力な説だと思いませんか。

ところで、桃太郎人形といえば、「日本一」ののぼり旗がつきものです。そして高松（鬼無）の日本一といえば、松盆栽。高松市の鬼無町と国分寺町で生産される松の盆栽は全国の約8割のシェアを誇ります。ここは日本一の桃太郎と松盆栽の郷（さと）なのです。

盆栽の世界ではちょうど今（4月末）「第8回世界盆栽大会 in さいたま」という大きなイベントが開催されています。高松からも関係者が参加し、ブースを設けて歴史や文化、名産を大いにアピールすることとしています。この際、高松の桃太郎伝説も世界に向けて発信すべく、一緒に売り込んでみてはどうかと思っています。

桃太郎伝説と松盆栽。どちらももっと自慢していい高松のお宝です。みんなで応援していきたいと思えます。